

そういう学校が連続して3回徹底した掃除をすることで変わりました。そのほかに個人的にずいぶん変わった人もいますね。全部が変わるわけではない。中には掃除に来てたけど変わらないという人もいますね。そういう人はどういう人かかっていうと、「手遅れの人(笑)」。病気だっけそうですね、手遅れの人っていますよ。お医者さんだっけどうしようもないんです。もう一つあるんです。「もともと変わった人」だと言われている人は変わらないですね。大方の人は掃除を通して変わる、個人が変わる、家庭が変わる、社会が変わる。広島県の元警察署長さんから手紙が来ておりました。犯罪がピーク時より52%減った、半分以下になったんです。今、犯罪が半分減ったという所はないですよ。横ばいならいい方で増える一方ですね。そういう時に掃除で犯罪が52%減ったんです。大きな効果が出ているところもあります。またこれも広島ですが、暴力団の3人が暴力団を抜けて正業に戻った。それから暴走族が集団暴走をピタッと止めて、それまで社会の厄介者だった少年たちが見事に変わったという例が世の中にはたくさんあります。

### 【日本の教育について】

残念ながら日本の教育が大きく歪められたために間違った教育を受けた人が世の中にたくさん出てしまいました。これを改めていかなければならない。しかし、私は大き

# 便教会新聞

第174号

令和4年10月

便教会は、教師の教師による教師のためのトイレ掃除に学ぶ会です。「方法論や技術や手法ではない、ただ身を低くして実践あるのみ」の教育方針で、自らの人格を高め、便教会新聞115号を転送して共有して下さった。前回の通り当時の私は、トイレ掃除はおろか、清掃活動にも参加したことがなく、たいへんショックな遭遇であった。2015年9月の事であったと今でもはっきり覚えていいる。そこにはトイレ掃除を理解できなかった自分がいた。以下は当時、「便教会新聞」を初めて読んだ時の私の感想である。

### 『掃除、便教会への思い』

西尾を美しくする会  
菅原 伸吾

2020年9月に出向という形で茨城県から愛知県へ赴任した。実家のある三重県に近づくという安心感を覚えたが、19年振りの地元。さらに三河の地は初めてということもあり、知り合いがほとんどいない状況で不安もあった。ところが「掃除に学ぶ会」の何と有難いことか。赴任したその月から名古屋の大塚さんにお誘いいただき、高野先生が世話人をされる「西尾を美しくする会」の仲間に加えていただいた。年末には杉浦さんが世話人をされる「西三河掃除に学ぶ会」主催の中学校での掃除大会、そして扶桑東小学校や豊野高等学校で開催されるミニ便教会にも参加させて頂いている。寂しさをまったく感じることはない。茨城にいた時よりもトイレ掃除をする機会は明らかに多く、有難いことである。私生活では、中小企業から大企業への出向ということもあり、肩身は狭く、会社では否が応にも抑圧的なものを感じながら業務に取り組んでいる。精神的にツライ環境に身を置いているが、掃除に学ぶ会での活動が心身に共にリフレッシュしてくれ、救われているよう

く変える権限も力も無いわけですから、権限とかそういう力に頼らない生き方、この掃除だったら何の権限も無くてもできる。掃除を通して子どもたちの社会性とか助け合いの気持ちを育てていこうと思えました。人は自己実現をすることが最大の幸せですよ。 「自己実現をしたい、これができるいから不幸だ、つまらない」とよく言う人がいますが、「自己実現」というと間違えて、たくさんのお金を儲けるとか財産を持つとか、そういうことが自己実現だと勘違いしている人が多いんですけど、それは自己実現にはならないんです。いくらお金を貯めたつてもっとお金が欲しくなるだけで、もっともっと喉が渴いたときに塩水飲んでいようなもので、ますます飲めば飲むほど喉が渴いて気が狂うほど飲みたくなるんです。本当の「自己実現」って何か、人の役に立つということ。これが最大、最高の自己実現でして、これによって自分の存在価値、意義を自分で確信できるようになると思います。子どもの時から本当の自己実現の道をも身につけてもらいたい。それには掃除による達成感、誰が使ったかわからない臭い、汚れたトイレをきれいにして人の役に立とう、そういう気持ちに基づいてやってやがて他者への配慮、何かがあったら助け合って生きられる。そういう気持ちに繋がっていけばいい、これが私の願いですね。

に思う。

私と便教会との接点は2015年に遡る。ひよんなことから2015年7月にできた読書会に参加することになった。当時、私はまだ掃除活動には参加していなかった。読書会のような人間学を学ぶ場に参加することも初めてのことであった。その読書会で、世話人であった縄田良作さんが「便教会新聞」115号を転送して共有して下さった。前述の通り当時の私は、トイレ掃除はおろか、清掃活動にも参加したことがなく、たいへんショックな遭遇であった。2015年9月の事であったと今でもはっきり覚えていいる。そこにはトイレ掃除を理解できなかった自分がいた。以下は当時、「便教会新聞」を初めて読んだ時の私の感想である。

「便教会新聞を読んでおりますが、なかなか自分の気持ちを言葉であらわすことができません。正直、複雑な気持ちです。やれば間違いないカルチャーショックを受けると思っています」今思えば、掃除との出会いはカルチャーショックなどという小さなものではなく、人生を変える出会いであったように思う。

掃除と出会ってからは、毎月どこかの掃除活動に参加させてもらっているが、活動の中でも私は子ども達が参加する学校のトイレ掃除大会

【編集後記】家の近くに小さな公園があり、午前中はゲートボールで賑わい、夕方には保育園児、小学生の遊び場となり元気な声が響きます。近年、その生け垣のカイズカイブキが伸び放題に伸び、その茂みの中にペットボトル、空き缶、お菓子の包み紙等が投げ込まれていて、「汚いなあ」「こんな所にゴミを捨てるやつは許せないな」と公園の横を通るたびに不快になっていました。「市役所の公園緑地課に電話して……」と思いましたが、「便教会新聞で言ってることとやっけることが違うぞ」ともう一人の自分が言うので、刈り込みバサミを使って少しづつ伸びた枝葉をカットし始めました。さっぱりと景観が整うと同時に積年のゴミが山になりました。目の届かない所にゴミを捨てる心理はちよつとした罪悪感があるからでしょうか。捨てたゴミが見えなければ罪の意識が生まれないのかなあ? 「自分さえよければ……」と小さなゴミを捨てる行為は『小事』ですが、その小事が重なると、『小変』となり、「小変」が重なるると『中変』となり、そのまま放置すれば『大変』な状況となります。今の世の中、社会環境、教育環境、自然環境……が大変な状況であっても、「誰かが何とかしてくれる」って思っている人が多いのでは……と心配です。「ハチドリの一滴」の行為が大事なんです。一人の人ができることは『小事』ですが、その「小事」が良い方向に重なれば、『大変』良いに変わります。 高野修滋 拜

には特に強い思いがある。会社員の私が、日本の将来を担う子ども達の教育に直接携わる機会はない。ただ身を低く掃除大会は今の私が唯一、直接関わることでできる子ども達の教育の場である。今の私にとってそれ以上大切なことが他にあるだろうかという気持ちを持っている。掃除は子ども達の道徳教育に最適であることを信じて疑わない。森信三先生によれば道徳教育は次の二つからなる。

- (一) 道徳的判断を練る
- (二) しつけ

(一) は善悪を見分けることであり、(二) は善い事を続ける習慣を身につけることであると思う。そしてトイレ掃除は、誰もが最もやりたくない、そして必ずしも自分がやらなくてもよいことで、善い事を始めるための強い心を育てることに繋がる。善い事を行うのは実は非常に難しい事だと思ふ。実践と学びを始める前の私はまったく出来ていなかった。例えば、公共交通機関で座席に座っていた時、ご老人が乗車してきても席を譲るといふ行為に恥ずかしさを感じた。人前で善い事をするに恥ずかしさを感じてきた。そういう邪魔をしている自我を取り払ってくれたのが掃除だったように思う。

愛知へ赴任し、便教会の活動にも参加させて

便教会新聞発行責任者 高野修滋  
〒445-1080  
愛知県西尾市米津町天竺桂二七  
T/F 〇五六三-五六一四三二七  
携帯 090-4215-1727

いただくようになった。会社員の私が便教会に参加する理由は三つ。一つは、自分の心磨きを行うためである。心を磨く代わりに便器を磨く。今の私にとって生きていく上で最も大切なことの一つである。そういう場を作ってくださり、参加させていただける事はとても有難いことである。二つ目は、子どもたちの育成や教育に関わることができる点である。汚いものばかり見ていたら人の心は荒む。汚いトイレは不良生徒の溜まり場となるかもしれない。最も汚れるトイレをきれいにすることで、子ども達の心から少しでも荒みを取り除き、学校を学びにふさわしい環境に保つことに寄与できるならばそれほど嬉しいことはない。三つ目は、学校のトイレ掃除を「ミニ便教会」という形で実践されている教育現場の先生方を応援したいということである。日本の未来を考えると、子ども達の教育抜きには語れない。教育に直接携わっている先生方を、掃除を通して応援できるならば、できる限り参加して応援したい。

昨年、「西三河掃除に学ぶ会」主催の大治中学校掃除大会に参加させていただいた。その中で、掃除後に会話した3年生生徒との会話が今でも印象に残っている。高校受験を控えた生徒がわざわざ自分の意志で掃除大会に参加したことに驚いた。どうして参加したのか聞くと、去年も先輩が参加していたからと言うのである。素晴らしい校風が出来つつあるなど感心した。素晴らしい校風が出来つつあるなど感心した。先輩の後ろ姿を見て後輩が後に続く。人が続ければ習慣になるように、学校が続ければ校風となるのではないか。このような良い上下関係は、次項の観点にも繋がります。

### ●無駄を省く・大切に

時間や数量を限定することで、無駄な動きが無くなり、また、洗剤の使用量が減り長持ちします。普段は蛇口をひねれば水がいくらでも出てきますが、災害発生時は、水を多く使えない状況にもなります。「バケツ3杯のみで100人が手を洗う」方法を教えていただきました。それはほんの少量の石けんをつけて手をこすった後に、バケツに手をつまむのではなく、ほんの少し水をすくって、バケツの外で手を洗うというものです。3つのバケツ、順に繰り返すことで、できるだけ水を汚さずに手を洗うことができました。やり方を工夫し、物を大切にすることを学びました。

### ●具体的に指示する

「カネヨンは10円玉ぐらい」「バケツの上の線まで水を入れる」「石けんは米粒半分ほど」など、量を正確に伝えることや、サブリーダーに対しリーダーはしてほしいことを明確に伝えることを教わりました。トイレ掃除を一緒に行う仲間ならば、しっかり伝えなくても暗黙の了解や阿吽の呼吸で掃除をすることができてしましますが、トイレ掃除に慣れていない人や初めての人は、曖昧な指示では伝わりません。便器を

え生まれる掃除大会が長く続くように、私は参加できる限り微力であっても役に立てることがあるならば誠に幸甚である。

2019年末に武漢で始まったコロナ禍、我々が行う掃除活動の機会も奪った。もし私が関東にいたならば満足に活動に参加することは叶わなかっただろう。周囲の目もあり、活動しにくい世の中となった。そんな中でも掃除実践を休まず続けられる高野先生の近くに来て、関東にいた頃と変わらないどころか、トイレ掃除をする機会がむしろ増えたことは有難い限りである。神様がコロナ禍でも休まず掃除を続けなさいと私に言っているのではないか。そう思えてならないのである。今、私生活では苦しみを感じている。しかし、掃除と共に何とかこれを乗り越えて、きつとその先にある光を掴みたい。そして日本が今より少しでも良くなるようにと願い、百人の一步として便教会や掃除に学ぶ会の活動にこれからも参加していきたい。

## 『掃除リーダー研修会に参加して』

大山市立栗田小学校  
教諭 小山 晃範

「リーダー研修会と、普段のトイレ掃除、何が違うのだろう。」そんな思いを抱えながら、今回の「掃除リーダー研修会」に参加しました。掃除実習では、鍵山幸一郎さんご指導の班となりましたが、私自身としては目的意識があった訳ではなく、漠然とした気持ちでの参加でした。「自己紹介とともに、今日学びたいことを言っ

磨くのにかネヨンを大量に使ってしまったり、サブリーダーが何をしていたのか迷ったりしてしまうのは、相手の状況を見ずに適当な指示を出してしまうリーダーの責任であると教えていただきました。

### ●五感を大切に

便器を磨くのに、目で見るだけでなく、臭いを嗅いだり、磨く「キュッキュツ」という音を耳で聞いたり、手で触ってツルツルかザラザラか確かめたりすることを教えていただきました。前からだけでなく横から、下からという見ることには意識をしていましたが、視覚以外の五感を使うことの価値を改めて考えました。

### ●初めと終わりを大切に

トイレ掃除というと、トイレを綺麗にするこ とばかりに意識が向きがちです。しかし、はじめと終わりを大切にすることを教えていただきました。トイレ掃除が始まる前に、履いてきたスリッパを壁に揃えて置くことや、片付けの際、バケツの持ち手の場所を揃えることを教えていただきました。最初に脱いだスリッパは、最後にまた履きます。また、最後に片付けたバケツは、次の掃除の際、最初に準備をします。最初と最後は繋がっており、掃除だけしか目が向かないようではいけないと反省しました。今回の掃除の道具のうち、スポンジやタオルなどは、スギ製菓さんが持ち帰り、洗って乾かし、しまう作業が残っています。そういった所まで考えて行動できることが、リーダーに求められるのだと感じました。このほかにも、「手順を大切にすること」「状況に合わせて時間配分を考え

て下さい。」幸一郎さんから最初に指名され、咄嗟に出た言葉が、「1時間少しの実習で、どのように時間配分をするのかを知りたい」でした。これまで行ってきたトイレ掃除は最低でも2時間はかかります。説明を聞きながら掃除をするということ、「時間配分が難しいのでは」と思いました。私なら、「便器掃除だけにして、壁や床などは省く」という判断をするところでしょう。しかし今回の掃除実習では便器のみならず、壁も床も行いました。これには、驚きしました。説明・解説と実際の掃除、どちらも行いながらです。便器の掃除についての説明後、「では5分で便器を掃除しましょう。」との指示がありました。「5分で」と驚きましたが、短い時間を指示されることで、集中して便器を磨く雰囲気はガラッと変わりました。「便器は30分程度で磨く」という先入観を持っていた自分が浅はかでした。今回の参加者はトイレ掃除で経験がある人ばかりです。また便器も普段の掃除が行き届いているのでしよう、比較的綺麗な状態でした。参加者、トイレの状態を見て、少し厳しめの時間設定をする。そうすることで集中せざるを得ない状況になる。今回の研修が「リーダー研修」であり、普段の掃除と違うのだと気付かされました。リーダー研修では、「掃除の方法」以上に、様々な「観点」を教えていただきました。自分が学んだ観点について以下に報告します。

### ●限定する

前述のように、時間を限定することで、集中せざるを得ない状況が生まれます。そして限定すること「片付けの時間をしっかりと確保すること」「儀式的に行うのではなく、変化を体感させること」「初めての参加者が嫌な思いをしないよう、酷い汚れはある程度事前に落としておく」などなど、学んだことは計り知れませんが、自分自身が言語化できない気づきや教えていただいたこともたくさんあることでしょう。大変濃密な一時間半でした。このような貴重な経験をさせていただき、感謝しております。ありがとうございます。今後の掃除に生かす、参加する方に貴重な経験をさせていただけるようにしていきたいと思えます。

## 【一問一答】 鍵山相談役への質問

（第20回大正村掃除に学ぶ会の講演より）

### 【掃除による変化】

全国にはびっくりするような変化が起きた学校がありますね。荒れていて学校という形を為していない、(生徒の) 出入り自由、学校の行事は何もできていない学校が徹底した掃除をすることによって良くなった、あるいは広島の高等学校のようにパトカーが専属で学校の周りを警戒している、そういう学校もありました。地域社会から、早くこんな学校は閉鎖して欲しい、危険でしようがないという学校も掃除をすることによって見事に変わりました。広島市の二葉中学校は掃除によって29年ぶりに体育祭が開かれ、それ以後、学校の行事が正常に開かれるようになりました。それ以前29年間、学校の行事は全くできなかったんです。

今号(174)で鍵山相談役は「子どもの中から本当の自己実現の道を身につけてもらいたい。それには掃除による達成感、誰が使ったかわからない臭い、汚れたトイレをきれいにして人の役に立とう、そういう気持ちで基になってやがて他者への配慮、何かがあったら助け合って生きられる。そういう気持ちに繋がっていけばいい、これが私の願いですね」と仰っています。西尾を美しくする会の菅原さんは「日本の未来を考えると、子ども達の教育抜きには語れない。……先輩の後ろ姿を見て後輩が後に続く。人が続ければ習慣になるように、学校が続ければ校風となるのではないか」と見通す眼を持って掃除活動をがんばっておられます。教育は「場を清める」ことから始まります。荒れた学校が徹底した掃除で健全な教育現場になった例はたくさんあります。反対に日々の掃除(放課後)を軽視して手抜きをしていれば欠席、遅刻、早退数が増え、教室環境が乱れ、盗難、いじめなどの問題が起こるようになります。悪くなるスピードはあつという間の速さですが、改善の方向にはかなりの努力の積み重ね(時間)が必要となります。掃除に学ぶ会の活動を続けていた学校の校長が替わって、道徳教育の基となる掃除実践を止めることがあります。本当に残念です。コツコツと続けるほか道はありません。

高野修滋 拝